

ざまなものと妥協・重層した仏教でありました。

また、この顕密仏教は、歴史的には、宗教と国家権力による二重の民衆支配の一翼を担っていました。本多先生は、あてがわのしょうひやくしやうちしやう阿豆川莊百姓申状などの古文書を紹介しながら、宗教は「呪詛（のろい）」などによって、他方、国家権力は物理的暴力によって、そうごほかんてき相互補完的に民衆を支配していたことを明らかにされました。

それに対して、法然・親鸞の説いた専修念仏の教えは、念仏一行こそ真実の行「念仏のみぞまこと」として選り取り、他の行（＝諸行）や、世俗の秩序を含むその他の一切を「そらごととたわごとまことあることなし」と選り捨ててゆく「選り

の思想を本質としていました。つまりそこで説かれる救いは、財力の有無、縁故の有無、宗教的能力の有無による救いを否定し、念仏を軸とした平等



の救い・解放を説きました。それは、顕密支配体制を根幹から揺るがす危険思想であつたわけです。

さらに、親鸞さまの念仏は、念仏を弾圧した人に対して、「報復攻撃」をすすめたわけではありませんでした。

「この念仏する人をにくみそしる人をも、にくみそしることあるべからず。」

「よくよく念仏そしらんひとをたすかれとおぼしめして、念仏しあはせたまふべく候ふ。」

の救いを説き、さらに国家権力に対しては「国王不礼」、世俗宗教（顕密仏教や神祇信仰）に対しては「諸行（念仏以外のさまざまな行）＝顕密仏教」を捨てよといい、「神祇不拝」を説き、世俗的価値観を相対化して、被支配者である民衆の真の

救い・解放を説きました。それは、顕密支配体制を根幹から揺るがす危険思想であつたわけです。

さらに、親鸞さまの念仏は、念仏を弾圧した人に対して、「報復攻撃」をすすめたわけではありませんでした。

「この念仏する人をにくみそしる人をも、にくみそしることあるべからず。」

「よくよく念仏そしらんひとをたすかれとおぼしめして、念仏しあはせたまふべく候ふ。」

と、弾圧者も包み込む念仏でありました。本多先生は、親鸞さまは、弾圧者に対する自らの世俗的思いも相対化されていたのだとお話くださいました。

の救いを説き、さらに国家権力に対しては「国王不礼」、世俗宗教（顕密仏教や神祇信仰）に対しては「諸行（念仏以外のさまざまな行）＝顕密仏教」を捨てよといい、「神祇不拝」を説き、世俗的価値観を相対化して、被支配者である民衆の真の

龍谷大学  
夏期巡回

## ほとけの子夏の集い



二〇〇七年八月八日、蔵本通支坊で、龍谷大学伝道部の学生さんが来てくれて人形劇や仏さまのお話、ゲームなどしてくれる「仏の子夏の集い」が行われました。今年は、ネギ先生とマッスー先生が来てくれました。

人形劇では、気の弱いキツネのコン太くんと、ケンカつばやいのロコンちゃんが、「男らしさ・女らしさ」について教えてくれました。男と女の違いは、出産できるできない等の生物学的性（セクシャリティー）と、後で社会的文化的につくられる性（ジェンダー）「男らしさ・女らしさ」があります。前者は変えようのないもの、後者は変えられるものですね。

また、会終了後、希望者でソーメン流しやスイカ割りもして遊びました。

写真（右）人形劇で大笑いするほとけの子。

写真（下）ソーメン流しの様子。

